

今、二上山でササユリが見頃です

二上山は何といてもササユリの名所。山の各所で咲いていますが、雌岳西側の草地や笹原には数多くのササユリが次々と花を開いて、訪れる人々を楽しませています。

花の色も白に近いものから、濃いピンクまで多様で、その違いを論じ合うのも楽しみです。

複数の花や蕾を付けた株も

中でも8輪の蕾を付けた右の株は、人気の的。いつ開くのか話題になっていましたが、このほど下の5輪がピンクの花を開きました。期待にたがわぬ美しさで女性たちのため息を誘っています。



山の斜面には、まだまだ蕾のものも多く、深まりゆく緑の中の立ち姿をしばらくは楽しめることでしょう。

初夏の花たちも

また、季節柄アジサイ、コアジサイ、テイカカズラ、シライトソウ、ホタルブクロ、ツルアリドオシなど他の花も咲いており、さらにウグイス、ホトトギス、サンコウチョウ、イカルなど小鳥の囀りの中を歩きます。ご一緒に登りませんか。



緊急事態宣言解除直後の金剛山

子どもたちがはつらつと

↓フタリシズカ

5月25日新コロナ対策の緊急事態宣言が解除された。

同月30日バイクで金剛山登山口に。御所市高天(たかま)の高天彦神社に7時25分着。ここは標高450m、金剛山(1125m)の中腹とも言える高所の集落で、いわゆる神話の高天原(たかまがはら)伝説のある里。でも歴史的にはここらは天皇系とは別の豪族・葛城族の本拠地だった地域。この矛盾をどう説明するのだろうか。

高天滝から郵便道へ

さて登山に戻ろう。「迂回路」の標識があるが、その道はコロナ禍で地権者により「通行止め」になっている。

大杉の立ち並ぶ神社参道から高天滝目指して川沿いの道を登



る。水車が回っており、その奥にバイカウツギが匂い立つばかりに咲き誇っている。滝の手前で対岸に渡り、登山道に取りつく。7時40分迂回路からの道と合流。ここに道標さながらにタツナミソウが一株咲いている。

最短の登山道＝郵便道

郵便道と呼ばれる道をひたすら登る。この道は昭和に入っても山頂の寺社に郵便物を届ける道だったと言う。昔の郵便屋さんのご苦労に思いを馳せつつ、息を弾ませながら急登をゆっくりと進む。何か所かでフタリシズカが花をつけ、オトコヨウゾメやコックバネウツギの花も可愛い。



↑タニギキョウとザトウムシ（よくクモに間違われる）

花は終わっているがショウジョウバカマとイカリソウの株が多い。こちらは来春の楽しみ。

ミソサザイの声がこだます山頂

登山道崩落箇所には巻道が作られており、遅滞なく前進できた。9時30分ダイヤモンドトレールと合流、山頂めざす参道のほもりにはハコベやタニギキョウ、ギンリョウソウが咲いている。9時50分「金剛山山頂」の標識のある葛木神社着。ミソサザイの美声が巨杉の並木にこだましている。あの小さな体でこんな力強い轉りがよくできるものだ。

ほほえましい親子連れの様

ベンチで軽食をとり、裏参道を通って一の鳥居へ。葛城山が遠望されたが、数日前に見たあのツツジの耀きは見えなかった。遊歩道を巡って「ちはや園地」に。親子連れも多く、嬉々とした子供たちの姿に思わず頬が緩む。11時10分湧出岳（標高1112m）に登り、不動道コースで下山。郵便道との分岐で「不動道を通るように」との看板を見落としたことにはじめて気づいた。12時35分登山口に帰着。

↓葛城山 満開のツツジ 5月下旬 ヤマトツツジとミヤコツツジ



↑オトコヨウゾメ

